

## 思春期の敵

神奈川県 平塚中等教育学校

三年 飯野 華衣

中学三年生、絶賛思春期の私には不満がある。それは私の家があまりにも思春期に向いていない構造であることだ。

特に自室から一歩外に出た時にある吹き抜け。これがまた厄介で私の部屋での会話が家中に響きまくりなのである。これじゃあ秘密話の一つも出来ない。また同じように家族の会話もこちらに丸聞こえだ。勉強中だとしても気が散ってしまい集中する事が難しい。わずか二畳半の吹き抜けにこんなに悩まされるとは。また父のこだわりによって天井が高くスペースを区切るドアが極端に少ない。吹き抜けだけでなくこの家の構造自体がさらにこの問題を大きくしている。

このようにお年頃としては非常に過ごしにくいと思っていた家なのだが、最近気付いたことがある。まず心細さを感じる事が少ないということ。私が友達、部活などで悩み落ち込んでいるとき、その不安やモヤモヤを私の家では丸ごと包み込むように家族の音が響き渡っているのだ。私は自分の考えや悩みを相談するのがあまり得意ではない。だから一人で落ち着く時間も大切なのだが、やっぱり一人だと不安になってしまう。そんな時家族の声を聞く気持ちが落ち着いて自分を整理したり心強さを感じることが出来た。またうちの家族は皆ズボラである。上下いちいち移動して会話するなどもつてのほか。そんな我が家にはやはり声が届きやすい構造が最適なのだろう。

前までプライベートがないと感じていた家もやっぱり過ごしやすい物なのである。家を私たちに合わせているのか、私たちが家に合わせているのかは分からない。ただ家はただ住むだけの役割ではなくて家族が繋がり、人を支えている存在だと感じた。とりあえず私の家は思春期の敵で家族の味方ということなのだろう。